

千代田支部ニュース

向き、不向きより、前向き！

<http://www.chiyoda-p.com/> 東京都印刷工業組合千代田支部 発行人 佐野栄二 編集人 斎田精一

PRIMEDEX 2010 視察バスツアー

—電子化時代のビジネスチャンスを探る—

「プリントメディアの明日を提案 —Think! print next」をテーマに掲げた展示会「Primedex（プリメディクス）」が、7月22日から24日まで横浜市のパシフィコ横浜で開かれた。会場を都内から移し、63社367小間規模の展示や基調講演、セミナーで最新情報を発信したほか、業界関係者が交流を図るライブパーティーなどを打ち出した新機軸は好評を得た。来場者は33,500人であった。

7月23日（金）、千代田支部では東京都印刷工業組合の事業として初めて都外で開催される見本市を成功させるべく、視察バスツアーを実施した。今回のバスツアーでは千代田支部より37名が参加、大型バス1台にて支部前より午後1時に出発。一路バスにてパシフィコ横浜へ直行した。バス代、ライブチケット、懇親会すべて含めて3,000円という超お得イベントである。さて現地では各自、5時まで各ブースを訪問し新しい技術等勉強する。引き続き、ザ・ワイルドワンズのライブイベントに参加するべき5時半に会場へ集合し、6時より7時までの1



時間、団塊の世代を代表する懐かしのメロディーと一緒に歌ったりした。ザ・ワイルドワンズは「思い出の渚」他2曲位しかヒット曲がなく、ほとんどがカバー曲であるが、同世代の方が多く、会場は大いに盛り上がった。ライブ終了後、展示場2階のイタリアンレストラン「アッティモ」にて反省会と懇親会を開催、午後9時過ぎにバスにて帰路に着き、東京駅前で解散した。

開催初日は午前9時半から2階アネックスホールで開会式が行われた。PRIMEDEX協議会・吉岡新副会長の開会挨拶に続き、水上光啓会長が主催者を代表して次のように挨拶。

「今回 PRIMEDEX は心機一転、会場をこのパシフィコ横浜に移した。本日お越しの皆様方には、素晴らしい会場との印象をもたれたのではないかと思う。展示会のテーマ『プリントメディアの明日を提案～THINK! PRINT NEXT～』を掲げた。

印刷業会の厳しい環境の中、印刷業界全体で新しい印刷ビジネスモデルと一緒に考えていこうというタイムリーなテーマであると思う。



社会の大きな変化の中にあり IT 化、情報化といった言葉は今では当たり前になり、今年は iPad などが発売され、電子書籍元年といわれている。この iPad は黒船ともいわれているが、私は印刷業界の敵ではないと思う。著名な作家が電子書籍を出版することで紙の本も相乗効果で売れているということを見逃してはならない。プリントメディアと新しいメディアが融合することで、さらに新しい価値が生まれる。プリントメディアの価値の高められる可能性があることを明示しているのではないかと考える。この展示会にはプリントメディアの価値を高めるヒントが沢山詰まっている。是非、活用していただきたい。」



来賓挨拶で東京都産業労働局の吉村課長は、「印刷産業の活躍の場が様々な分野に広がってきたのも、皆さんが常に問題意識を持ち、現状を打ち破る意欲を持っていたからだと思う。

今、印刷業会も技術革新の変化の中にあるが、



イタリアンレストラン「アッティモ」



ライブを前に登壇の水上協議会会長



盛り上がるライブ会場

印刷業界は過去にも幾多の変化を乗り越えながら発展を続けてこられた。今ある変化に対しても、適切な対応を取り、発展されるものと確信している。また、日本印刷産業連合会の猿渡会長は「印刷・出版ビジネスの不況、電子書籍の登場によって、従来の印刷・出版の役割は大きく変化を余儀なくされている。これまでのものづくりの業態から、顧客の問題解決や支援を行う、ソリューション産業やサービス産業への転換が進むだろう。新たな場所で開催となったこの展示場でビジネスチャンスを創出していただきたい」と祝辞を述べた。



夜景をバックに撮影



乾杯！



佐野支部長挨拶



暑気払い懇親会 —放心亭—

毎年恒例となりました「暑気払い」が 8 月 25 日 (水) 午後 6 時より欧風レストラン放心亭にて開催された。

これは支部の事業では一番人数を集められる行事の一つで、三省堂書店地下 1 階にあるこのお店は満席で参加者は 71 名であった。大西副支部長の司会進行にて、佐野支部長より、次の支部事業である火坂雅志氏による文化講演会と商工連との共催、軽井沢バスクツアーの件など、なるべく参加してほしい旨の要請があり、その後 D グループ春田氏の乾杯の発声にて開宴となった。宴の雰囲気が盛り上がった中で、B グループ坂口氏の手締めで閉会となった。



文化講演会 「戦国武将も中小企業のオヤジ！」

2009年度のNHK大河ドラマ「天地人」の原作者、火坂雅志氏をお迎えし、飯田橋の東京しごとセンター講堂にて、9月22日(水)6時半より講演、60人が聴講した。まず山本副支部長の司会にて、佐野支部長の挨拶の後、戦国武将の戦略、生きざま、上杉家の義と仁について講演。ちなみに、火坂氏と佐野支部長は高校・大学の同期生である。

火坂氏は1956年新潟市生まれ。早稲田大学商学部卒。「別冊歴史読本」副編集長を務めたのち、1988年「花月秘拳行」で作家デビュー。上杉謙信の義の心を受け継いだ直江兼続を描いた「天地人」で第13回中山義秀文学賞を受賞。そのほかの著書には、「黒衣の宰相」「黄金の華」「沢彦(たくげん)」「全宗」「家康と権之丞」などがある。学生時代に司馬遼太郎の「燃えよ剣を」読んで感動し、歴史小説家を目指す決心をする。しかし毎年本を出版し続け、50冊以上出してもまったく世間の目に止まる事がなかった。綾小路きみまるの例えを出して、潜伏期間20年以上を経て、今日の運をつかんだ。また火坂氏は歴史小説家と自己紹介し、「歴史小説は年季のいるもの。人生哲学が入っていないと人の心を打たない。今、人気のある作家は、亡くなっている方が一番の売れっ子という厳しい世界。ライバルが同世代ではなく、亡くなった方というのは本当に辛い。対して、ミステリーや小説では新人が出てきやすい。新しい感性を持ち、時代にあっていいる事が必要なので、逆に年をとると厳しくなる」と、自身の仕事について説明した。

また、大河ドラマ主人公の直江兼続について説明。「直江兼続は新潟県の戦国武将。主君は謙信の養子の上杉景勝。最初は家老という役職だったが、いづれ全権を掌握し、執政という役に就き、景勝と2人で戦国の荒波を乗り切って行く。兼続は智将。大変頭がよいことで知られていた。天下人、豊臣秀吉は兼続を評して『天下執柄の器量人』。天下の政治を任せられる器量を持った人物と



・講師の火坂雅志氏

言っている。直江兼続の生まれは南魚沼市の坂戸城下。子供の頃から可愛い少年で、後々ハンサムに。背も高く、しゃべれば演説も上手い、カリスマ性を持った人物。これに対し、主君の景勝は正反対。兼続よりも5歳年上で正反対の2人だが、このコンビが非常にうまくいった。

戦国時代には、能力のある家臣は、下克上で自分が上に立つという時代。しかし兼続は景勝に仕え続けた。2代目というのは厳しい。特に初代が謙信という大変な名将。謙信は生涯2度しか負けなかつたと言われている。同じく2度しか負けなかつたと言われているのが武田信玄。

武田家は2代目の勝頼の時代に織田信長に滅ぼされている。上杉家も何度も滅亡の危機があったが、乗り切っている。もし上杉家に兼続がいなければ、武田家と同様におそらく滅んでいた。

兼続は「謙信学校」というものに入門する。これは、謙信が若い青年を集めて酒を飲みながら、武将の心構えや戦い方を語るというもの。智謀の将と言われるくらいで兼続はどんどん謙信から教えを吸収し、『謙信の一番弟子と言われるまでとなる。では、どんな事をおそれたのか。戦国時代というのは非常に生きにくい時代。生き残るのは20%ほどで、残りの80%は滅ぶ厳しい時代。戦国時代は100年にわたる内乱の時代であちこちで紛争が起こっていた。農民は田畠を耕しに行く時、腰には刀を下げていた。内乱が続くと流通はストップして経済活動は停滞する。そして何より人心が荒廃する。謙信は、これに「それでは獸と同じ」と異

を唱えた。人に胸を張って語れる生き方、背筋を伸ばして生き、乱世に生き残ればすばらしいと考え、実行した。謙信は「義」をテーマとして掲げた。「義とは私利私欲を捨て、人の信義を大切にし、公の心をもつて事にあたるということ。それを言うだけでなく、実行した。これを言い出した時、周りの大名は、「理想論のような甘っちょろいことを言って失敗するぞ」とせせら笑った。謙信の若い頃というのは、あちこちで家臣の反乱が起こっていた。それで、やつてられないと謙信は出家。

そこで悩んだ末に掲げたのが「義」。自分のためではなく、越後のため、家臣のために何ができるのかと考えるようになる。そのうちに、家臣もこの人のために行こうとなる。結果強力な家臣団、組織を作ることに成功した。ただ、謙信は「義」という精神論を唱えていただけなく、一方で経済政策をよくやった武将。謙信というと毘沙門堂に籠って神のお告げを聞いて、出陣していくというイメージだが、それは一面にしか過ぎない。

謙信の行った経済政策は3つ。

1つ目は新田の開発。用水を整え、石高を増やした。

2つ目は、金銀山の開発。戦国時代の最大の金山は、岩船郡の高根金山。

3つ目が、殖産工業の推進。

謙信はアオソの栽培を大々的に行っている。アオソは高級な麻織物で、越後上布の原料。京都や大阪方面の商人に大変売れた。

この謙信が行った経済政策によって、越後は戦国群雄第一と言われる経済大国となつた兼続が謙信から学んだのは、この「義」と「経済」の両立。この方法論が大変優れていて、謙信は次々と領土を広げ、戦国の名将となつた。

謙信は兼続が19歳の時に脳溢血で倒れ、遺言を残さずに亡くなる。その結果、景勝と景虎の2人の養子の間で、跡目を巡り激しい争いが起こる。これを御館の乱。越後は2つに分かれての内乱状態となつた。内乱が起こると国は疲弊する。結果、謙信が広げた領土も次々と奪われ、弱体化した。1年後に景勝と兼続が勝利を収めるが、

その時には越後以外の領土はほとんどなくなっていた。

その時に京の方で急成長したのが織田信長。信長の方法論は「強い相手とは戦わない。」そんな信長が一番戦いを避けたのが謙信。信長は謙信に対して国宝級の贈り物をどんどんしている。ただ、信長と謙信は1度だけ戦ったことがある。謙信は、加賀の手取川で柴田勝家をはじめとする織田の主力軍と戦い、一蹴してしまう。それ以降は1度も戦っていない。

魔王と言われる信長だが、若い頃は柔軟な外交政策で乗り切っている。また信長は改革者で鉄砲などの新兵器をどんどん取り入れている。ただ、信長は、上洛するのが早すぎた。そのため、周りを浅井長政や朝倉義景、比叡山延暦寺、三好三人衆などに囲まれ、四面楚歌の状態。そこでどうにもならないと比叡山延暦寺を焼き討ちしてしまう。その結果、周りは信長はなんでもする奴と震え上がり、敵はもちろん、部下にも恐れられていく。そしてどんどん権力は高まる。そして、武田家は信長によって滅ぼされ、上杉家も滅亡の危機を迎える。ここで兼続と景勝に1つの奇跡が起る。信長が本能寺の変で倒れた。これを幾に、上杉は旧領をどんどん回復する。この時兼続は考えた。信長はどうして滅んだのか。戦国最大の成功例となるはずの信長が、本能寺の変によって最大の失敗例となつた。信長は比叡山の焼き討ちで変わり、暴君と化してしまう。そのため、周りからあの大将ではダメだと思われるようになり、優秀な家臣が見限らなければいけないという状態になつた。

そこで兼続は信長には人徳が欠けていたと考えた。人徳の欠けている大将は真の大将



ではないと気付いた。それ以降、兼続は自分の兜や旗に「愛」という文字を付けるようになる。「愛」というと武将らしくないと思われるかもしれないが、その流れは武士道。武士道には2つの柱がある。1つは「義」。二文字にすると義理や信義、正義など。謙信は戦後の乱れた世の中で武士道精神を思い出せと言っていた。言ってみれば謙信は武士道の先駆者。もう一つ並ぶのが「仁」。武士の情け。人に情けを持った行動をとらなければいけない。戦いが終わった後は、敵に対しても情けをかける。必要以上に痛めつけ、辱めてはいけない。勇まし

いだけでは真の大将になれないということ。つまり、強い父性原理と優しい母性原理を持つのが真の大将。この「仁」を二文字にすると仁愛。そこで兼続は「愛」を掲げた。これは兼続が、信長と違い情けを持った政治をやっていくという表明だった。

徳川の世の中になり、外様大名となった上杉家は領地を会津若松より米沢へ転封、30万石の小大名となつたが、その後兼続の財政改革により50万石の石高に増える。また図書館を建てたり、日本で最初の銅版印刷を始めたりした。

平成 22 年度 敬老の集い 組合本部事業

東京都印刷工業組合主催の第44回「敬老の集い」が9月9日（木）、元赤坂の明治記念館で開催、満77歳以上の長寿者92人が出席して盛大に祝った。また当千代田支部より西田栄治氏、和田浩二氏、木全実氏、小林忍氏、保木忠彦氏の5名が出席された。当日は来賓、組合役員ら合わせて161人が出席。午前11時から儀式殿で参拝したのち、正午から「富士の間」に移動して祝賀会が行われた。

最初に挨拶に立った水上理事長は「長寿者の皆さんには、私たちが経験したことのない厳しいハードルを乗り越えて現在までビジネスを遂行されてきた。私達は最近業態変革を言い続けているが、皆さんはずっと昔から業態変革をやり続け、素晴らしい業界、組合にしていただいたことに対し改めて心から感謝と敬意を表したい」と述べたのち、東印工組の現状について次のとおり説明して理解と協力を呼びかけた。

「東印工組は組合員の減少に歯止めがかから



記念撮影

ず、大変厳しい運営を強いられているのが現状である。社会が大きく変化する中、情報化が進み、産業構造も大きく変わり、環境問題へも対応しなければならない。加えて今年は電子書籍元年といわれ、さらに大きな波にさらされている。だからこそ、私は組合が重要だと思っている。一人では開けられない扉を皆の力を合わせれば開けられるというのが組合の基本だ。現在、『連帯』『対外窓口』『共済』の3つのキーワードをもとに組合運営を続けているが、想像以上に社会が変化しているので、いろいろな問題に対応するため今年から委員会組織を変更した。

大変厳しい社会の中で従来のビジネスモデルが通用しなくなり、新しいビジネスモデルを作らなければいけない。長寿者の皆さんには大きな情熱をもって業態変革をやり続けて大変な改革の波をくぐり抜けてこられた。今の社会変化も皆さんのが経験してきた



儀式殿でお祓いを受ける



ことからみれば知れている。私達も大きな情熱をもってこの印刷業界を取り巻く閉塞感をぜひ打開していただきたい。長寿者の皆さんには、どうかこれからも東印工組を温かい目で見守り続けていただきたい。まずは健康に留意され、来年もこの場で元気でお会いできることを祈念している」次いで笠井康弘全印健保理事長挨拶、次に長寿者を代表して挨拶に立った伊藤幸次氏(77歳、伊藤印刷所)は「伝統ある行事にお招きいただき、長寿者を代表してお礼申し上げる」と述べられた。

この後、森永伸博副理事長の発声で乾杯した。祝宴では向島芸奴による舞踊と邦楽の他、今年も市川知隆氏(98歳、市川印刷所)の「月の砂漠」の元気な歌声が披露されるなど、大いに盛り上がった。



千代田支部長寿者

- 今井印刷(株)
- 西田製版所
- (株) 加藤文明社
- 新村印刷(株)
- (株) 新聞之新聞社
- (有) ヤナミ印刷所
- (株) 平河工業社
- (株) 精興社
- (株) 三友社
- 広橋印刷(株)
- (株) 文會堂
- 大和綜合印刷(株)
- (株) 文化カラー印刷
- (有) 六洲社印刷所
- (株) 博文社
- 二葉印刷(株)
- (株) ヤスキ

○印当日出席者

- | | |
|------|-----|
| 今井義雄 | 95歳 |
| 西田栄治 | 91歳 |
| 加藤保幸 | 87歳 |
| 新村重晴 | 87歳 |
| 式正大 | 86歳 |
| 矢浪久枝 | 84歳 |
| 和田和二 | 83歳 |
| 山田 隆 | 81歳 |
| 西野久雄 | 80歳 |
| 吉田千秋 | 80歳 |
| 田中良三 | 80歳 |
| 木全 実 | 79歳 |
| 小林 忍 | 78歳 |
| 鈴木悌次 | 78歳 |
| 石野恭司 | 78歳 |
| 小河正男 | 77歳 |
| 保木忠彦 | 77歳 |

—今後の千代田支部事業予定 9月30日現在—

- 10月 2日(土) 千代田支部・商工連共催
ONEDAY IN 軽井沢
- 10月末予定 全体役員会
- 10月 21日(木) 千代田支部ゴルフ大会 鷹の台C.C
- 11月 1日(月) 税務研修会
- 12月 予定 顧問相談役会
- 1月 26日(水) 千代田支部新年会
- 2月 予定 研修会

広告
協賛会社
15社

山櫻 ■
-60%
【CO₂-60% バッグ】
焼却時に発生する二酸化炭素量を60%
削減するプラスチックバッグ
株式会社 山櫻 神田支店
新宿区払方町15番地 TEL:03-5261-4301

人から人へ心を伝える
 heart
www.heart-group.co.jp
各種紙製品
名刺 封筒
カード はがき
東京支店 101-0054 東京都千代田区神田錦町3-2
TEL 03-3518-0311 FAX 03-3518-0321

(取扱い品目)
紙
出版・印刷用紙、包装用紙
情報用紙、特殊紙、板紙

株式会社 鵬 紙 産
会社 戸 塚 千 二
代表取締役 本 店 / 東京都中央区八重洲2-6-13 ☎ (3274) 2351 (代表)
新宿店 / 東京都渋谷区初台2-1-1 ☎ (3379) 0271 (代表)
江東店 / 東京都江東区桜川2-6-14 ☎ (3646) 3221 (代表)
板橋店 / 東京都板橋区新河岸2-9 ☎ (3979) 5811 (代表)

二葉紙業株式会社
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町3の27
電話 03 (3265) 6151 代表

sakurai
全自动オフセット印刷機
自動スクリーン印刷機
(株) 桜井グラフィックシステムズ
〒135-0032 東京都江東区福住2丁目2番9号
電話 03 (3643) 1131 (大代表)

ト
•洋 紙
•板 紙
•ブッククロス
株式会社 田村洋紙店
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-2
電話 東京 5210-3121

SCREEN
MEDIA TECHNOLOGY
株式会社 メディアテクノロジー ジャパン
MEDIA TECHNOLOGY JAPAN CO., LTD.
東京都千代田区九段南2-3-14
☎ 03-3237-3124

DIC
Color & Comfort by Chemistry
DICグラフィックス株式会社
DIC株式会社とザ・インクテック株式会社は、
国内印刷インキ事業を統合し、
2009年10月1日に
合弁会社 DICグラフィックス株式会社を
設立いたしました。

四国紙商事株式会社
東京都千代田区内神田1-13-7 〒101-0047
TEL(03)3293-4591 FAX(03)3293-3284
営業所 城東(墨田)城北(中野)城南(大田)平塚(神奈川)

TOYO INK
www.toyoink.co.jp
東洋インキ製造株式会社 Tel:03-3272-0620

KOMORI
Kando Beyond Expectations
(株)小森コーポレーション
http://www.komori.co.jp
本社 東京都墨田区吾妻橋3-11-1 〒130-8666
TEL 03-5608-7803~8 (営業商談)

FUJIFILM
富士フイルム グラフィックシステムズ株式会社
ホームページ <http://ffgs.fujifilm.co.jp>

紙を見たら「竹尾」と囁いてください。
株式会社 竹尾
TEL(03)3292-3611大代

C
千代田洋紙株式会社
代表取締役社長 濑川治紀
101-0051 東京都千代田区神田錦町3-11
TEL.03(3293)1411 (代)

出版.COM

出版・印刷・製本業界の就職、転職、求人サイト 出版ドットコム

出版・印刷・製本業界の人材コンサルティング会社

株式会社トーハン・コンサルティング

〒162-0813 東京都新宿区東五軒町6-21 トーハン別館4F

TEL 03-3267-8686 MAIL info@tohan-c.co.jp

<http://www.syuppannavi.com/tohan-c/>

労働派遣事業 13-08-0315 有料職業紹介事業 13-ユ-080265